

2015年 春号

第89号  
僧伽編集委員会  
〒921-8031  
金沢市野町2丁目32-4  
徳法寺内  
TEL (076) 241-5219  
題字 本多 千翠

# 僧 伽

だがな、オフエーリア、  
その口先だけの炎は、  
光るほどに熱はない

『ハムレット』 第三場

『ハムレット』  
シェークスピアの  
三大悲劇の一つ。  
小田島雄志訳

先日、映画『永遠のゼロ』が、第三十八回日本アカデミー賞で、作品賞をはじめ八部門で最優秀賞を獲得した。この百田尚樹原作の映画は、岡田准一のイメージにも助けられ、私たちにさわやかな感動を与えてくれた。また戦後生まれの我々とは共有しがたい主人公の心理も、戦時中の極限状態ということを考えれば、かろうじて納得できるものがあった。しかし同じ百田氏の『海賊と呼ばれた男』になると、出光興産の創業者がモデルだというが、あまりにも話がすぎているように思えてならない。果たして大企業の経営というものが、これほどまでに勧善懲悪のきれいなことで成り立つものなのか。ここには書かれていないだけで、本当は表に出せないようなこともあったのではないか。

百田氏からすれば、これぞ真の日本人の姿だと言いたいのだろう。男気にあふれ、愛国心を静かに燃やしながらも、情に流されることなく、つねに冷静沈着に

## 百田尚樹という作家

常徳寺 西山 彰

大局を見据えて、正々堂々と行動し勝利する。彼の描く主人公は、確かに文句のつけようのない人物である。しかしこれが日本人の理想像だと言われると、首をかしげざるを得ない。

もしこんな日本人ばかりだったら、日本は先の戦争に負けなかったはずだ。邪推かも知れないが、これが百田氏の作品に隠されたメッセージのように思えてならない。



そうは言うものの、百田氏の小説には、やや自信を失いかけていく我々に、日本人の誇りを思い出させてくれる痛快さがある。しかし一通り楽しませてもらった後で、『海賊…』も、『永遠…』も、基本的にフィクションであることに思いを致すべきだろう。読み手としては、フィクションだからこそ、いくらでも物語を美化できるということ忘れてはならないと思う。(6ページに続く)

# 松井定子



## 「木偶廻し」に魅了されて

今から二十五年前、石川県白山市に古くから伝わる人形浄瑠璃「深瀬の木偶廻し」を初めて観た。舞台上は太夫の浄瑠璃に合わせて、手も足も動かない一メートルほどの木偶（でくの人形）を廻す人達の足音が融合していた。その三味線もなく素朴な世界に魅了されてしまった。

当時は、木偶を廻す者や浄瑠璃を語る太夫は、男性に限られていた。しかし、年月とともに会員の高齢化が進み、次第に人数も減少していく中で、存続が危ぶまれるようになってしまっ

た。その様な状況を打開すべく、今から七年ほど前から木偶廻し保存会が、男女問わず会員を新聞紙上で募集し始めたので、私もさっそく入会した。

初めて木偶の人形を持つた時、肩や手にずしりと重い感触に、思わず緊張してしまった。木偶を廻すことや浄瑠璃の独特の節回しはどれも難しく、一人前になるまでにはまだまだ時間がかかるが、木偶廻しに魅了された私は先輩の指導を受けながら今でも楽しくやっている。私以外にも女性の会員がいることも励みに

なっている。

人形浄瑠璃の物語には「源氏烏帽子折」や「酒天童子・大江山」、「熊井太郎孝行の巻」などがあり、古いものは奈良時代や平安時代のものから、源氏物語や平家物語を題材にしたものもある。どの物語も太夫が一人で語る。男性の太夫はめりはりがあるが、私は女性の太夫なので力強さに欠けないよう気をつけている。舞台では、木偶を廻す人と太夫は呼吸を合わせなければならぬ。観客と木偶を廻す人と太夫の語り一心一つになった時、場内は静まりかえり快い緊張感に包まれる。

この「深瀬の木偶廻し」は、古老の言い伝えによると、およそ三百年前、旧尾口村深瀬の集落に地方巡業に来ていた木偶廻しの一行が、豪雪で身動きできず困っていたところを村人に助けられ、そのお礼に木偶と廻し技法を伝授したということである。その後、昭和五十

年（一九七五年）に手取川ダム建設の為、旧尾口村の深瀬地区は水没することになった。この時多くの村人が白山市深瀬新町に移住し、ここに「木偶廻し保存会館」が作られた。昭和五十二年（一九七七年）には、「国指定重要無形民族文化財」の指定を受けて現在に至っている。

現在、毎年二月にこの「木偶廻し保存会館」において

上演を行っている。今年から、私の夫も会員になり、今では夫婦共々木偶廻しを楽しんでいる。



プロフィール  
昭和二十六年（一九五一年）  
新潟県に生まれる  
金沢市在住  
「かなざわ民話の会」代表  
「深瀬木偶廻し保存会」会員

# 和讃わさんに学ぶ

## 第四十六回

徳法寺 杉谷 浄

### 他の宗教との関係

お釈迦様がインドで仏教を説かれて以来、他の宗教との関係をどのように築いていくのかということ、いつの時代でも大きな課題でした。実際中国では、インドから伝わった仏教と、中国発祥の宗教である儒教や道教がしばしば対立し、幾度となく仏教排斥が行われています。

これに対して、日本では仏教伝来から今日に至まで、宗教的な対立による大規模な仏教排斥は行われませんでした。明治政府によって行われた廃仏毀釈も神道と対立したわけではありませんが、その理由が伺えるのが次の親鸞聖人の和讃です。

天神地祇はことごとく善鬼神となづけたり  
これらの善神みなともに念仏のひとをまもるなり

「天神」とは天におられる神様で、「地祇」とはそれぞれの土地を守っている神様です。つまり、仏教以外のすべての宗教の神様ということになります。どのような宗教の神様であろうとも、神様はすべて善い神様であり、そして念仏する者を守って下さるというのです。このような発想はインドの仏教にもありません。日本に仏教と共に伝わってきた帝釈天や吉祥天などは、元々はインドのバラモン教の神様です。それらの神様を否定したり悪者にするのではなく、逆に仏教を守つ

て下さる神様として取り込んでしまつたのです。中国では、儒教の先祖崇拜や道教の自然崇拜を、神様としてではありませんが、仏教の一部として取り入れていきます。このように、仏教は他の宗教と対立するのではなく、相手を認めつつ、本質を変えないようにしながらも、その地域に受け入れ易い教えの姿に合わせにくくことを伝統としてきました。この精神が親鸞聖人も受け継がれ、今回の和讃のようになっていきます。

とはいつても、インドや中国の仏教は、他の宗教から攻撃されて衰退してしまいました。しかし日本では、神道が明確な教義を持っていなかったこともあり、仏教は神道と一体化して、今日まで続いてきました。浄土真宗は阿弥陀仏以外の神仏を礼拝しないので、キリスト教やイスラム教のような一神教であるかのように思われることがあります。が、礼拝しないだけで排斥

はしません。それどころか親鸞聖人は念仏する者を守って下さるとおっしゃっているのです。ただ、阿弥陀仏以外の神仏を本尊としないというだけです。

これは方便ではありませんが、仏教以外の宗教や、その地域に根付いている価値観を否定することなく、相手を尊重しながらも仏教を広めるために考え出された先人たちの知恵です。今の日本は世界的にみても、様々な宗教が友好的な関係を保っている数少ない国の一つです。これは仏教と神道が長い時間をかけて築いてきた歴史が生み出したものですが、ここには宗教や宗派の対立によって争いが絶えない世界の中で、是非伝えていかねなければならぬ知恵が示されているように思います。今一度、私たちに伝えられてきた素晴らしい宝物を見直してはみませんか。

### 杉谷浄の

### ラジオ案内

五月五日(火)  
六月二日(火)  
七月七日(火)  
八月四日(火)

F・M・N・I(七十六・

三MHz)で午後一時半から一時間放送します。

番組名は「生活一番シャトル便 住職のよもや

ま話」です。再放送は放送日の週の土曜朝六時からです。インターネットでも聞けます。

『心の相談室』  
毎月第四土曜日  
午後三時～五時  
東別院横

「いちよう館」二階  
相談料無料

日常生活でのいろいろな悩み、家族のこと、友達のこと、学校のこと、仏事の疑問等を、僧侶がお聞きします。

# 「善導独明仏正意」に 込められた宗祖の思い

常徳寺 西山 山 彰

「正信偈」の中に、「善導 独明仏正意」という一行がある。途中で導師(たいていは住職)が、一人で唱える一句である。

「善導ひとり仏の正意を明かにせり」読み下せばこのようになる。これは「中国の善導大師という方だけが、仏様の本当のお心を明らかにされた」という意味である。なかなか強いお言葉であるが、なぜ親鸞聖人はこのように言い切られたのであろうか。

善導大師(六一三〜六八二)は、中国の隋の時代の人であつた。当時中国では、浄影寺慧遠(五二二〜五九二)、天台智顛(五三八〜五九七)、嘉祥寺吉蔵(五四九〜六三三)の三人が、隋の三大法師と呼ばれていた。一方善導大師は、これら大師の影に隠れて、さほど有名な方で

はなかったと言われている。

ちなみに、親鸞聖人は、『教行信証』の中で、善導大師の言葉を引用される際に、「光明寺の和尚の曰く」と書かれていた。これは、「光明寺の住職さん」ぐらいの意味で、もし善導という名前が有名ならば、このような書き方をする必要はなかったと思われる。

さて、『観無量寿経』は、中国、日本の仏教の歴史の中で重要視されてきた代表的な經典の一つである。古来多くの学僧たちがこの經典の解説書(『観経疏』)を著わした。しかし善導大師の『観経疏』は、先に紹介した三大法師のそれとは、まったく違っていたのである。

ここで『観無量寿経』というお経の内容を簡単に押さえておきたい。まず序分

(序文)で、韋提希という王妃のことが描かれる。彼女は、王舎城の悲劇と呼ばれる事件に遭遇し、憔悴しきつている。そしてその韋提希が救いを求めたのは、釈尊だつた。続いて、正宗分(本文)では、釈尊が韋提希に説くという形で、仏を觀察する方法(「十六観法」)が、語られる。

この構成を見れば、誰でもこのお経は、「十六観法」を説くことを主題としているととらえるであろう。まさに隋の三大法師は、そのようにとらえた。そして、王舎城の悲劇は、それが序文で語られていることからしても、観法が説かれることになつたきつかけを述べたにすぎないと考えたのであつた。

しかし善導は違つていた。観法の内容にはほとんど目もくれず、この序分こそが大事だととらえたのである。なぜ善導大師はそのように解釈されたのであろうか。それは、一言でいえば、仏

教というものに対する考え方が諸師とは根本的に違つていたからだと言つてよいだろう。諸師たちにとつて、仏教とは、そこで衆生が苦しんでいようがいまいが関係なく、体系的に存在するものであつた。それに対し、善導大師は生きて苦しむ凡夫のために観経が説かれていると解釈したのである。

ここに、悩み苦しむ者に呼応する形で仏法が説かれるのだという善導大師の信念がうかがえるのである。

中国ではほとんど注目されることのなかつた善導大師であるが、海を隔てた日本で大師に目を開かれた人がいた。それが法然上人である。親鸞聖人の師である法然上人は、「偏(ひと)えに一師善導に依る」とまで述べておられる。この「偏」という字は、「かたよる」とも読め、善導大師の説が、中国仏教においては傍流であつたことを示していると言われている。

しかし、善導大師の教え

にこそ仏教の真実があると感得された法然上人の教えは、やがて親鸞聖人に受け継がれ我々の知る真宗の教えとして結実することになる。

「善導独明仏正意」という一行に込められた宗祖の思いは限りなく深い。

## 『サンガ茶話会』

毎月第一木曜日  
午後三時〜五時  
東別院真宗会館内  
囲炉裏の間

お茶とお菓子をつまみながら、お坊さんと気楽にお話できる空間です。相談というほどではないにしろ、ちょっと聞いてみたい、いろんな人と話してみたいという方大歓迎です。もちろん無料です。お気軽にご参加ください。

# 仏教豆知識

## 猫も杓子も

「だれもかれもが」という意味の慣用句に、この「猫も杓子も」というものがあります。では何故「猫」と「杓子（しゃくし）もじのことです）」なのでしょう。

この言い回しが広まったのは、一休さんの

生まれては  
死ぬるなりけり  
おしなべて  
釈迦も達磨も  
猫も杓子も

という歌によるといわれます。この歌が江戸時代前期・元禄時代に書かれた『一休咄』に転載されたことから、広く知られるようになりました。この言い方が一休さんの考えたものなのか、当時すでに使われていたものかは分かりませんが、語呂がいいの

で今でも使われています。ただこれがどういう意味なのかは、江戸時代でも理解できなかったようで、諸説が残されています。

歌の意味は一休さんらしい明瞭なものです。たとえばお釈迦様でも、禅の開祖である達磨大師でも、生まれた者は皆すべて死ぬものであるということですから、このお釈迦様と達磨大師と並べて、猫と杓子が歌われています。猫は確かに死にますが、杓子は死にません。そこで、一休さんのとんちを解くための試みが行われます。

説1、「禰子（ねこ）も釈子（しゃくし）も」説  
神社の神官を禰宜（ねぎ）といいます。そして禰宜の子どもを禰子（ねこ）といいます。また、僧侶をお釈迦様の弟子であることから釈子（しゃくし）とも杓子も「は、」禰子も釈

子も」を音だけ残して頓知にしたと言う説です。つまり、何を信じていようと、死ぬことは同じであるという意味になります。

説2、「女子（めこ）も弱子（じゃくし）も」説  
これは、落語「横丁の隠居」の説です。横丁の隠居さんが「女子（めこ）も弱子（じゃくし）も」の発音を「ねこもしやくしも」と聞き違えというのです。語呂としては悪くはないのですが、死ぬことは平等であることを歌っていることとは関係なさそうです。似た説に「女子（めこ）も赤子（せきし）。赤ん坊です（も）説、「寝子（ねこ）も」説、「寝子（売春婦）も」説、「釈氏（講釈師）も」説がありすが、やはり歌とは意味が通じません。

説3、猫や杓子は日常生活において目につきやす

いからという説や猫がちよつかいを出している手の形が杓子に似ているという説。  
だからどうしたという感じですよ。

説4、杓子は家庭の主婦をさし、猫まで動員した家族総出の意味だとする説  
主婦を「杓子とり」「杓子渡し」という言い方をすることがあることから、留守番をしていることが多い主婦と猫までも、という意味からだれもかれもという意味になるとい説です。ただし、昔の猫が家の中でじっとしていたとは思えませんし、よほど裕福な家でもない限り、当時は女性も仕事をしているのが普通ですから、この説もどうでしょうか。

私は説1が有力だと思ふのですが、いずれにしても、一休さんは人騒がせな歌を残したものです。（浄）



徳法寺の  
ホームページの  
「僧伽」のバックナン  
バーや報恩講、春秋彼岸  
の案内、お講の案内、学  
習会のレジュメ、交流広  
場などを載せています。  
アドレスは  
<http://tokuhou-ji.com/>  
です。是非覗いてみて  
ください。



(表紙の続き)

### 第三舞台の ことなど

作家で舞台の演出家でもある鴻上尚史氏は、十二月十七日付け朝日新聞の『問われる既存メディア』という特集の中で次のように述べている。

「最近『あなたはいまのままでいい』『ありのままの価値がある』と自分を無条件に肯定してくれる本が売れています。それは『何もなくても日本人だから最高の存在』と訴える超保守的な人々の考え方に通じます。

地道に考え、知恵を積み重ねれば『日本人でいるだけで素晴らしい』という論理は受け入れがたい。」

この一文は、大ヒットしたデイズニー映画の主題歌を批判したものでない。間違ひなく、百田尚樹氏のベストセラーのような本のことを言っているのだ。

さらに鴻上氏は、次のように続けている。

「しかし、こうした主張を展開する人たちは、リベラル勢力や外国人への憎悪を呼び覚ます言葉を熟知しています。知性や論理ではなく、人々の感情を揺さぶり、感情を動かす言葉を発信する力があります。」

百田氏が、先の東京都知事選において、某立候補者に肩入れするあまり、ヘイトスピーチまがいの暴言を吐いてしまったことは記憶に新しい。鴻上氏の言う「発信力」が、やや拙い形で噴出したといえるだろう。

最近、百田氏は一人の男の最期をドキュメンタリー小説に仕上げた。一昨年亡くなった、歌手でタレントのやしきたかじんを描いたものである。献身的な若妻の愛を、彼は『殉愛』と名付けた。この内容について、遺族からクレームがついているという。正確な取材に基づいていないというのだ。

さもありませんかと思う。どうも百田氏には自分の思いだけで人物を理想化して描い

てしまう癖があるようだ。

かつて作家の村上春樹氏は、日中間のナショナリズムの高まりを危惧して、安酒に気を付けよと新聞紙上で警告を發した。安酒はすぐに酔えるが悪酔いするので用心を、というわけだ。新聞のほぼ一面を使って、両国の彼のファンに向けて訴えた渾身のエッセイは、堂々とした品格を備えた名文だった。

そういえば三十年近く前、鴻上尚史氏が主宰する「第三舞台」の公演を、大阪阿倍野の近鉄小劇場で見たことがある。『ピー・ヒア・ナウ』と題された超シニールで難解な演劇だったが、鴻上という若い演出家の並々ならぬ才気を感じさせるに十分だった。小倉寛久とまだ無名だった筧利夫が出ていた。

ついでに書かせていただくと、私はやしきたかじんが結構好きで、彼のCDを二枚も持っている。特に「東京」は私の重要なカラオケ

のレパートリーのひとつだ。

大体彼の歌は、ワンパターンで、「浮気されても騙されてもアンタについていくわ」という、男性にとつてこの上なく都合のいい女の人の歌である。これがまた安酒によく合うのだ。

歳を重ねるにつれてだんだん面倒なことが嫌になり、安酒に酔いしれ、思考停止状態に憧れるようになってきた。しかし地道に考えられ、知恵を積み重ねられて熟成された本物の味だけは、忘れたくはないものだ。

(彰)

## 各寺のご案内

### ◆常徳寺

金沢市寺町  
五丁目一番二九号  
TEL 二四一―二六四九

### ◆徳法寺

金沢市野町  
二丁目三二―四  
TEL 二四一―五二一九

◎お講 (石坂同信会主催)  
毎月二十一日  
午後七時半より

講師 四月 細川 公英  
五月 杉谷 淨

六月 西山 彰  
七月 杉谷 淨

◎報恩講

五月二十四日(日)  
午前九時半より

正信偈のお勤め  
午前十時半

法話

真宗大谷派  
教学研究所所員

御手洗 隆明師  
正午

御齋 手打ちそば

午後一時  
更科藤井

絵本と民族音楽の世界  
ロビン・ロイドさんの  
音楽と増田梨花さんの  
絵本読み合わせ  
午後二時半

立命館大学教授

増田 梨花氏